

第 2 学年 英語科学習指導案

1 単元名 PROGRAM 6 A Work Experience Program(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、由紀、武史、桃子が職場体験学習で学んだことや将来の夢について語り合う場面が設定されている。1 学期に職場体験学習を終えた生徒にとって、自分の体験と関連付けながら、働くことの意義、社会や人とつながって生きることの大切さ、こんな人になりたいという思いを英語で伝え合ったりするのに適した題材である。3 人の対話やスピーチを聞いたり読んだりして知り得た情報や表現を活用し、自分自身の体験や考えを整理して発表する力の育成を図ることができると思われる。

新出の言語材料としては、to 不定詞が登場するので、自分の好きなことやしたいこと、行動の目的、何をするためのものかについて表現することができるようになる機会となる。また、由紀、武史、桃子の対話やスピーチから、基本的なスピーチ構成 (opening、body、ending) を学ぶこともできる。既習の言語材料も駆使しながら、職場体験学習の内容や、将来に向けてこれからやりたいことについて、英語で的確に、そして筋道を立てて分かりやすく説明する力を育成するとともに、英語で伝え合う楽しさを味わわせたい単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、英語で話したり書いたりして自己表現することに課題が見られる。抽象的な思考操作が苦手な部分があり、相手意識をもち、筋道を立てて表現することにいくらか課題が見られるので、個々の生徒の実態を踏まえながら段階的に指導していく必要がある。教科書本文を初見で読むときには、最初に発問を与え、その答えを探すようにして文に注目させると、キーセンテンスや全体の内容を把握することができた。また、音読テストや教科書本文にオリジナル文を付け加える活動を設定したところ、音読練習に熱心に取り組んだり、オリジナルの英文を作ることを楽しんだりする生徒の姿が見られるようになった。全体の前で自分を出すことに抵抗を感じる生徒が少なからずいることから、「活動の一区切りごとに、短時間の小グループでの認め合い活動をこまめに取り入れ、ソーシャルスキルを身に付けさせる」「『友人の気持ちを考えながら話す』『友人の話は最後まで聞く』などのスキルをより伸ばす」ことが有効であると考えられる。また、生徒の学びが広がったり深まったりすることを目指し、生徒同士のインタラクションを増やし、ペアやグループで協働学習が効果的に行われるよう工夫する必要がある。

(3) 指導観

本単元のゴールは、1 学期の職場体験学習で体験したことや学んだこと、また、将来のために今後どのような生活を送りたいかなどについて英語でスピーチをすることである。ゴールの達成に向けて、次の 3 点について手立てを講じる。

- ① 友人関係が限定的な生徒たちであるが、英語を使ったコミュニケーション活動を通して、お互いに励まし合いながら学習することが楽しいと感じられるようにしたい。帯学習として、自分たちが活躍してきた職場体験学習の写真と共に示されるキーワードをヒントに、その様子を英語で表現する練習を全体で行う。少し自信が付いたところで、ペアで練習させる。ペアで協力してできるようになったら、表現する内容に新出文法で表現できるものを加えたり、自分の体験したオリジナルの内容を付け加えたりさせ、ペアの関わりが深くなるようにする。スモールステップで生徒同士の関わりを広げたり、表現する内容をふくらませたりしていくことで、英語でコミュニケーションを図

ることが楽しいと感じられるようにしたい。

- ② 相手を意識し筋道を立てて表現することができるよう、基本的なスピーチの型を体得させる。人の話を聞くことや理解すること、抽象的な思考操作をすることを苦手としている生徒が多いので、本時では最初にALTのスピーチを聞かせ、そのスピーチ原稿を一文一文短冊にしたものを黒板に示す。そして架空の3人の中学生が職場体験学習についてスピーチしている原稿を、1文1文バラバラにした短冊を封筒に入れて個人に与え、個々の生徒が1文1文にじっくり目を通し、ALTのスピーチ原稿の構成を意識しながら短冊を並べさせる。その後グループで並べた短冊を見せ合わせ、なぜそのような順序に並べたのか理由を述べ合いながら原稿を組み立てさせる。最後に教師が解答をグループに配る。その後、自分自身の職場体験学習や将来の夢、また、これからの生き方について英語で表現する活動に取り組ませる。帯学習で練習してきた表現を用い、グループで並べ替えたスピーチ原稿の構成をモデルにして、自分自身の経験や考えについてスピーチの原案を作成させる。これは、単元の最後に行うスピーチの原案になるので、次のセクションの学習でもこの原案を修正し、単元を通して原案に修正を加えながら原稿を完成させていくことを生徒に伝え、よりよいスピーチができるよう促す。
- ③ スピーチ原案を作成し始めるときに、ルーブリックを用いてスピーチ原稿と発表の仕方の評価基準を生徒に示し、それに基づいた自己目標を設定して活動させる。一人一人のスピーチの様子をビデオに録画し、それを授業で流してルーブリックを基に、互いに評価、ポジティブ・フィードバックを行わせる。こうすることにより、生徒たちは学習到達度を自覚することができ、改善に向けて何をすればよいのか自分で具体的に考えることができ、ペアやグループで学び合う機会にもなると考える。また、生徒同士で学び合う場を広げ次の学習につなげるために、生徒の評価が高かったものは、モデルとして文化発表会で紹介することとする。

3 単元の目標

- (1) ペアやグループで協力し、目標をもってスピーチ原稿の作成や練習に取り組み、発表している。
- (2) 職場体験学習の内容や、将来のために今後どのような生活を送っていききたいかなどについてスピーチすることができる。
- (3) 由紀、武史、桃子が職場体験学習で学んできたことや将来の夢について聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- (4) to 不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を用いた文の構造を理解することができる。

4 評価規準

【現行の評価の観点による評価規準】

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① ペアやグループで協力し、架空の3人の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。 ② ペアやグループで協力し、スピーチの発表練習をしている。 ③ 職場体験で学んだことや将来の目標について、聞き手を意識しながらスピーチしようとしている。	① 職場体験学習や将来についてのスピーチ原稿を4文以上で書くことができる。 ② 聞き手を意識しながら、原稿を見ないで表情豊かにスピーチすることができる。	① 本文の内容を理解し、発問に答えることができる。 ② 友達のスピーチを聞いて内容を理解し、フィードバックすることができる。	① 不定詞の名詞的用法、名詞的用法、形容詞的用法を用いた文の構造を理解している。

【新しい評価の観点による評価規準】

※新学習指導要領の評価の観点で示した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を用いた文の構造を理解している。 ② 本文の内容を理解し、発問に答えることができる。 ③ 友達のスピーチを聞いて内容を理解し、フィードバックすることができる。	① 職場体験学習や将来についてのスピーチ原稿を4文以上で書くことができる。 ② 相手を意識しながら、原稿を見ないで表情豊かにスピーチすることができる。	① 架空の3人の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。 ② グループで協力し、スピーチの発表練習をしている。 ③ 職場体験で学んだことや将来の目標について、聞き手を意識しながらスピーチしようとしている。

※ 佐賀県教育センター「プロジェクト研究（中学校英語科教育研究委員会）」の試案である。

5 単元計画 (全 8 時間 本時 2/8)

次	時	評価規準と評価方法	学習活動
第一 次	1	【評価規準】 ウー① 由紀が職場体験で学んだこと についての内容を理解し、発問に 答えることができる。 【評価方法】 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ My Project 5 「こんな人になりたい」のモデルスピーチ映像を見て、本単元での目標をもつ。 ・ 写真やキーワードを見ながら、自分たちが職場体験学習で行ったことについて過去形を用いて英語で表現する。 ・ 発問に答えるために由紀とウッド先生の対話文を読んで、内容を理解する。 ・ 内容についての英問英答をする。
	2	【評価規準】 アー① グループで協力し、架空の 3 人 の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。 イー① 4 文以上の英文を書くことができる。 【評価方法】 活動の観察 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やキーワードを見ながら、自分たちが職場体験学習で行ったことに加え、「わたしは～になりたいです」という英文を言う。 ・ ALT のモデルスピーチを聞き、そのスピーチ原稿を読む。 ・ ばらばらになった 3 人の架空の中学生が書いたスピーチ原稿を順番に並べる。グループになり、なぜその順序にしたのか理由を述べながら答えを比べる。 ・ 自分の職場体験学習や将来についてのスピーチ原案を 4 文以上書き、スピーチ発表の練習をする。
第二 次	3	【評価規準】 ウー① 武史が職場体験で学んだこと についての内容を理解し、発問に 答えることができる。 【評価方法】 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やキーワードを見ながら、架空の 3 人の中学生になったつもりで、職場体験学習の内容と将来の夢を言う。 ・ 発問に答えるために武史とウッド先生の対話文を読んで、内容を理解する。 ・ 内容についての英問英答をする。
	4	【評価規準】 エー① 「～するために...に行った」という表現を用いて英文を作ろうとしている。 アー② グループで協力し、スピーチの発表練習をしている。 【評価方法】 ワークシート 活動の観察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6-1、6-2 の本文を音読し、不定詞の副詞的用法に着目する。 ・ 不定詞の副詞的用法を含む文の構造を理解する。 ・ いくつかの例文の空欄補充をしながら、不定詞の副詞的用法を含む文に慣れる。 ・ 「～するために...に行った」という表現を用いて、職場体験学習で訪れた場所について英文を作る。 ・ スピーチ原案を修正し、グループでスピーチの練習をする。

第三 次	5	<p>【評価規準】 ウー① 桃子が職場体験で学んだことについての内容を理解し、発問に答えることができる。</p> <p>【評価方法】 ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やキーワードを見ながら、架空の3人の中学生になったつもりで、職場体験学習の内容と将来の夢を言う。 ・発問に答えるために桃子のスピーチを読んで、内容を理解する。 ・内容についての英問英答をする。
	6	<p>【評価規準】 エー① 「これは食べるためのものです。それは甘い(辛い)です。」などの表現を使って英語クイズを作ろうとしている。</p> <p>アー② グループで協力し、スピーチの発表練習をしている。</p> <p>【評価方法】 ワークシート 活動の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6-1、6-2、6-3の本文を音読し、不定詞の名詞的用法に着目する。 ・不定詞の形容詞的用法を含む文の構造を理解する。 ・いくつかの例文の空欄補充をしながら、不定詞の形容詞的用法を含む文に慣れる。 ・「これは食べるためのものです。それは甘い(辛い)です。」などの表現を使って英語クイズを作る。 ・スピーチ原案を修正し、グループでスピーチの練習をする。
第四 次	7	<p>【評価規準】 アー③ 職場体験で学んだことや将来の目標について、聞き手を意識しながらスピーチしようとしている。</p> <p>イー② 相手を意識しながら、原稿を見ないで表情豊かにスピーチすることができる。</p> <p>【評価方法】 ビデオの録画記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックの評価基準をもう一度確認し、最後の練習をする。 ・相手を意識しながら、原稿を見ないで表情豊かにスピーチし、録画してもらう。 ・早く終わった生徒から演習問題に取り組む。
	8	<p>【評価規準】 ウー② 友達のスピーチを聞いて内容を理解し、フィードバックすることができる。</p> <p>【評価方法】 ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・録画記録を見て、ループリックを基に自分や友達のパフォーマンスを評価し、今回の学習の成果を振り返る。 ・友達にプラスのフィードバックをする。 ・今後の学習における新たな学習目標について考える。

6 本時の目標

- (1) グループで協力し、架空の3人の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 職場体験学習の内容や、将来のために今後どのような生活を送っていききたいかなどについて、スピーチの原案を4文以上で書くことができる。
【外国語表現の能力】

7 展開 (全8時間 本時2/8)

※ は授業改善を図った手立て

	学 習 活 動	教師の働き掛け(○)	評価とその方法
導 入	1 自分たちの職場体験学習の様子を英語で話して伝える。〈学級全体→ペア〉	○何度も練習した写真とキーワードを示し、どの生徒にも何を表現しているのか分かるようにして練習した後、ペアにする。	
展 開	2 本文の音読練習をする。〈学級全体〉	○デジタル教科書でイラストや英文を示したり、時間設定をしたりして、生徒が練習に取り組みやすいように工夫する。	
	めあて 職場体験学習で学んだことや、将来のためにこれからしたいことなどについて4文以上の英語で伝えよう。		
		○学習ゴールを理解しやすいように、評価基準表を示す。	
	3 ALTのモデルスピーチを聞き、内容や構成に着目する。〈学級全体〉	○ALTのスピーチのキーフレーズを黒板に示し、内容や構成に着目させる。	アー①
	4 3人の架空の中学生が書いたスピーチ原稿がばらばらになった短冊を順番に並べる。〈個人〉	○スピーチの構成 (opening、 body、 ending) や内容に注目させる。	グループで協力し、架空の3人の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。
	5 グループで、互いの答えを比べる。その際、自分がなぜその順番に並べたのか理由を述べる。〈グループ〉	○自分で考えて分からなかった点などを尋ね合うよう指示を出す。	イー①
	6 自分の職場体験学習の内容とこれからやりたいことについてスピーチ原案を作成する。〈個人・グループ〉	○グループのメンバーや先生に質問したり、辞書を用いたりして英文を完成するよう指示を出す。	4文以上の英文を書くことができる。
7 完成した原案を見ないで言えるようになるまで練習をする。〈グループ〉	○グループ内で相手を変えながら、お互いに原稿を読むよう指示を出す。		
ま と め	8 数名の発表を聞いて、プラスのフィードバックをする。〈学級全体〉	○良かったところを褒めて、単元の最後に良いスピーチができるように励ます。	

8 本時の評価

評価規準	アー①：グループで協力し、架空の3人の中学生が書いた職場体験のスピーチ原稿を完成させようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】		
判断するめやす (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	課題達成に向けてグループメンバーと意見を出し合いながら原稿を完成させようとしている。	グループメンバーとの交流はあまりできていないが、課題達成には取り組んでいる。	課題達成に取り組まない。
→ (B)、(C) と判断した生徒への支援		→グループメンバーと協力するよう声掛けをする。	→スピーチ構成のポイントについて個別指導を行う。
評価方法	活動の観察		

評価規準	イー①：職場体験学習の内容や、将来のために今後どのような生活を送っていききたいかなどについて、スピーチの原案を4文以上で書くことができる。 【外国語表現の能力】		
判断するめやす (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	スピーチ構成に基づき、過去形を用いた職場体験学習の内容と、I want to ～. と I'd like to ～.を用いた自分のしたいことについての説明を含む5文以上の英文を書いている。	スピーチ構成に基づき、過去形を用いた職場体験学習の内容と、I want to ～.、または I'd like to ～.のどちらかを用いた自分のしたいことについての説明について4文の英文を書いている。	過去形を用いた職場体験学習の内容、I want to ～.、または I'd like to ～.のどちらかを用いた自分のしたいことについての説明のいずれかについているが、4文の英文を書くことができていない。
→ (B)、(C) と判断した生徒への支援		→したことや、したいことを、もう1文付け加えることを伝える。	→過去形、I want to ～.か I'd like to ～.を用いて、職場体験学習の内容や、これからしたいことを1文書くように伝える。
評価方法	ワークシートへの記述の分析		

<p>sang songs and played with the children</p>  <p>歌を歌い 子どもたちと遊びました。</p>	<p>put the things in order</p>  <p>商品を並べました。</p>	<p>made meals and served them</p>  <p>食事を作り、それらを届けました。</p>
<p>helped the patients</p>  <p>患者さんたちを助けました。</p>	<p>3. Did you enjoy it? 楽しかったですか？</p>	<p>Yes. I had a wonderful time. はい、素晴らしいときをすごしました。</p>
<p>4. Do you like to play with children? 子どもたちと遊ぶことは 好きですか？</p>	<p>Yes, very much. I want to be a nursery school teacher. I'd like to take care of children. はい、とても。 わたしは 幼稚園の先生になりたいです。 わたしは子どもたちをお世話したいです。</p>	<p>Yes, very much. I want to be a ~. I'd like to ~. 原形 はい、とても。 わたしは～になりたいです。 わたしは～したいです。</p>

資料 1 提示スライド

6-1 A Work Experience Program

職場体験学習でしてきたこと、これからやりたいことを入れたスピーチ原稿をつくらう。

1. ウッド先生と由紀の会話を音読しよう。

ウッド先生	由紀
1. Where did you work?	I worked at a nursery school (near the soccer stadium).
2. What did you do there?	I sang songs and played with the children.
3. Did you enjoy it?	Yes. I had a wonderful time. They liked me almost at once.
4. Do you like to play with children?	Yes, very much. I want to be a nursery school teacher in the future. I'd like to take care of children.

2. 3人のスピーチ原稿を完成させよう。

Ryu I worked at a shop. ...	Sara I worked at a restaurant. ...	Nami I worked at a hospital. ...
将来になりたい職業は()	将来になりたい職業は()	将来になりたい職業は()

3. 職場体験学習でしてきたこと、これからやりたいことを入れたスピーチ原稿を作成しよう。

	(職場体験学習でしてきたこと) ～で働きました。 ～をしました。
	(これからやりたいこと) ～になりたい。 ～をしたい。

4. できたスピーチ原稿を読む練習をしよう。(5時間後にビデオ録画) スピーチの評価基準は↓

原稿(内容)	スピーチ(表現)
4 これからやりたいことを2文以上入れて、4文以上書けている。	4 原稿を見ないで、表情豊かに発表している。
3 これからやりたいことを1文以上入れて、4文以上書けている。	3 原稿を見ないで発表している。
2 3文以上書けている。	2 原稿を見て発表している。
1 2文以下書いている。	1 原稿を見ているが、声が小さい。

資料 2 ワークシート